

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19251003

研究課題名（和文）アフリカ在来知の生成とポジティブな実践に関する地域研究

研究課題名（英文）Formation of African Local Knowledge and their Positive Practices:
An Area Studies Approach

研究代表者

重田 眞義 (SHIGETA MASAYOSHI)

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：80215962

研究分野：人文学A

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：local knowledge, 生業知、関係知、思惟知、エチオピア

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、現代アフリカに生きる人びとによって絶え間なく創り出される様々な知(=在来知)の生成の現場に我々が立ち会い、その動態を地域研究の視点からフィールドワークによって解明することにある。さらに、人びとが在来知をより良き生活のために活かそうとする営み(=ポジティブな実践)に注目し、その意味をグローバルな文脈に位置づけて理解することにある。

「在来知(Local knowledge)」は、人びとが自然・社会環境と日々関わるなかで形成される実践的、経験的な知である。このような「知」を実体として取り出してみせることはできない。本研究では それぞれの局面で立ち現れる知の存在様式(構造と機能、およびそれらの動態)に注目してその生成と実践の過程を扱うことにした。3つの研究ユニット(生業知、関係知、思惟知)と8つの研究班(在来農業、ものづくり、生物多様性の在来的保全、コミュニティ・コンサベーション、介入と交渉、開発と在来組織、音楽・宗教実践・映像*、アフリカ哲学)を組織して、エチオピアを対象に集中的なフィールドワークと国際ワークショップ・研究会を実施してきた。(*2008年度に追加した研究班)

2. 研究の進捗状況

これまで3年間の集中的なフィールドワークを通じて、エチオピアにおける在来知の諸相を多面的かつ実証的に明らかにすることができた。特に、文化人類学、農学、自然保護、芸術学、開発学、哲学等の研究者が共同して地域研究に取り組んだことは、これまで個人研究に限られていた対象地域の研究

にとって重要な進捗であった。当初計画の3ユニット7班構成に、2008年度からは関係知ユニットに1班(音楽・宗教実践・映像班)を追加して8班体制とし、総勢28名が参加した。また、毎年度エチオピアにおいて国際ワークショップを開催し、エチオピア人研究者のみならず近隣アフリカ諸国、欧米からも関連分野研究者を招いた(一部別資金)。その成果の一部は2009年度にAfrican Study Monographs誌の特別号として出版した。国内研究会も活発に開催した。

エチオピアにおいて人びとの様々な生活実践を対象に研究をすすめる上で、在来知(zairaichi)というコンセプトが包含的な性格を有しているという利点から、地元の研究者にも容易に受け入れられ共同研究をすすめることができた。また、研究会やワークショップで議論をすすめるなかで多数の新しい研究対象やアイデアが生まれた。その例として、「エチオピア農村部における携帯電話の普及と使用がこれまでの社会関係に与える影響」(JSPS 招へい外国人研究者による)や「高齢者の在来知：老人知のポジティブな実践」等の研究が進行中である。

在来知研究のもうひとつのねらいは、研究対象となる社会への成果還元結びつくような研究活動を展開することであった。具体的に南オモ県において調査地域の人びとと研究の成果を共有する仕組みづくり(住民参加型博物館)についてもアジスアベバ大学エチオピア研究所と共同して準備が進行中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) Web サイトの更新と広報および英語化の実施が遅れている点を除けば、研究計画は当初の予定以上に進展している。特に、若手研究者の養成に貢献することができた。生物多様性の在来的保全(1)、在来組織班(1)、音楽・宗教実践・映像班(1)の活動を通じて3本の博士論文(括弧内は論文数)が受理され、最終年度にはコミュニティーコンサベーション班(1)、ものづくり班(1)の成果も提出される。また、修士論文は、在来農業(2)、生物多様性の在来的保全(1)、音楽・宗教実践・映像班(1)の計4本が提出された。これまで3年間にエチオピア人研究者5人を計13ヶ月間招へいして共同研究をすすめることができた。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、最終成果のとりまとめのために短期のフィールド調査と、国際シンポジウムの開催(アジスアベバ、12月に予定変更)および研究成果の公刊に取り組む。特にこれまでの国際ワークショップの成果は2010年度中に欧文雑誌に特集として出版する予定である。また、今後の研究の発展とポジティブな実践につながる研究計画を期間内に立案する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計41件)

- ① 重田眞義, 「ヒト-植物関係としてのドメスティケーション」国立民族学博物館調査報告, 84: 71-96, 2009, 査読有
- ② 山越言, 「野生動物とともに暮らす知恵—西アフリカ農村の動物観とチンパンジー保全」ヒトと動物の関係学雑誌, 23: 22-26, 2009, 査読有
- ③ 重田眞義, エンダシャウ・ベケレ 「エチオピアにおける薬用植物の利用・保全・生産・流通」国際農林業協働協会, 18-51, 2008, 査読無
- ④ Kawase, I. "The Transformation of Musical Activities and Self-imposed Group Makers of Azmari in Ethiopia", *Cultures Sonores D'Afrique*, IV: 11-31, 2008, 査読有
- ⑤ Kaneko, M. "Variations in Pottery Making by Ari Potters in Southwestern Ethiopia: Analysis of the Finger Movement Patterns used in Forming Pots", *Nilo-Ethiopian Studies*, 11: 1-15, 2007, 査読有

[学会発表] (計63件)

- ① Shigeta, M. "On the Ensete project: Futurability of *Tree against Hunger* in

Ethiopia", *The 17th International Conference of Ethiopian Studies*, 2009.11.3, Addis Ababa University.

- ② 重田眞義, 「アフリカ在来知とその射程—在来知とポジティブな実践(1)」日本アフリカ学会第46回学術大会, 2009.5.23-24, 東京農業大学
- ③ 西崎伸子, 「エチオピアにおける野生動物保全—在来知とポジティブな実践(2)」日本アフリカ学会第46回学術大会, 2009.5.23-24, 東京農業大学
- ④ Nishi, M. "A Virus, Democracy and Sustainable Humankind: The Experience of Community-based HIV/AIDS Initiatives among the Gurage, Southern Ethiopia", *The 2nd International Conference of Kyoto University Global COE Program*. 2009.3.9-11, Kyoto.
- ⑤ 重田眞義, 「アフリカ在来知の生成とそのポジティブな実践に関する地域研究」日本文化人類学会第41回学術大会, 2007.6.4-5, 名古屋大学

[図書] (計17件)

- ① Tarsitani, B.A., S. Tarsitani & M. Shigeta (eds.), *The Center for African Area Studies, Kyoto University, Preserving Local Knowledge in the Horn of Africa: Challenges and Prospects for Collaborative Research in Oral Literature, Music and Ritual Practices*. 2010, 155p.
- ② 西崎伸子, 昭和堂, 『抵抗と協働の野生動物保護—アフリカのワイルドワイフ・マネージメントの現場から』2009, 197頁
- ③ 西真如, 昭和堂, 『現代アフリカの公共性—エチオピア社会にみるコミュニティー・開発・政治実践』2009, 289頁

[その他]

- (1) 報道関連情報
重田眞義, 寄稿「アフリカの知恵—学んだ成果を役立てるため協働し社会貢献を」毎日新聞夕刊文化欄, 2008.3.14, 12面
- (2) アウトリーチ活動
重田眞義, 一般向け公開講演「不思議な植物エンセテ: アフリカでのフィールドワークを通じてかんがえてきたこと」, 2008.12.9. 第46回京大サロントーク, 京大時計台百周年記念館
重田眞義ほか, 特別授業, 「エチオピア国際文化理解」2007-2009年各2回, 大津市立小松小学校
- (3) ホームページ
<http://www.zairaichi.org/>